

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム 竹の園
所在地	愛媛県西予市野村町野村12号106番地
自己評価作成日	平成28年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 7 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設近くの土手は利用者や近隣者の散歩コースになっており、田畑の緑にも囲まれた恵まれた環境です。外出を楽しみにしている利用者のため、計画的に食事会やドライブをしています。当グループホームは、医療機関を中心とした多くの介護施設の一部なので、利用者にとって多くの方との出会い、娯楽、リハビリ、教養の機会を持っています。音楽療法などはデイサービスで楽しみ、グループホーム間では相互のレクリエーションで人間関係を作ります。看取り契約者がおられる時には、訪問看護のサービス提供で、介護職員が安心でき、利用者にとっても最後まで穏やかに過ごせる場所となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は盆地の中にある市街地に立地しており、近隣に交番や保育所、児童館、乙亥会館がある。開設から11年目を迎え、地方祭や乙亥相撲の見物等の地域行事への参加や小学生との交流があり、地域に馴染んだ事業所になっている。職員は開設当初からの理念を継承し、利用者一人ひとりの思いを大切に、利用者のペースに合わせながら、家庭に近い環境で穏やかに過ごしてほしいという思いを持ってケアに取り組んでいる。経験豊かな職員が多く、熱い思いを持って利用者や家族の期待に応えようと努めている。また、経営母体が診療所で、24時間医療体制をとって地域の総合病院と連携しながら適正医療が受けられるよう支援しており、利用者と家族の安心につながっている。今年度はさらに看護師による日常的健康管理と看取り体制の整備に取り組んでいる。職員は熱心に研修に取り組み、研鑽を積んでサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	竹の園
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	小玉弘美
評価完了日	平成 28 年 6 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎日の申し送りや勉強会などで、理念に触れ、意見の統一を図りながら実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員が話し合っって作成した理念を大切に継承している。6項目にわたる理念には、利用者一人ひとりの想いを大切に笑顔と優しさで寄り添うこと、利用者の認知機能を十分理解した上で利用者のペースに合わせてながら、家庭に近い環境で穏やかに過ごしてほしいという思いがこめられている。理念は玄関や各ユニットに掲示され、職員はケアに行き詰った時に理念に立ち返り、共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 周囲の地域の方とは、何時も挨拶を欠かさず会話などを行っています。近隣の保育園、中学校との交流の機会があります。</p> <p>(外部評価) 隣家に住む高齢者は何かと事業所のことを気にかけてくれており、野菜の差し入れなどもしてくれる関係になっている。事業所周辺は地域の散歩コースになっており、挨拶を交わし合ったり、保育園児が散歩途中に事業所に立ち寄ることもある。利用者は、小学校の運動会や保育園の行事に招待されて交流したり、乙亥相撲の見物やマラソン大会では沿道に出て応援をしている。地方祭では牛鬼が事業所を訪れ、利用者はそれを楽しみにしている。また、職員は地区内清掃に参加して、地区の人と顔見知りの関係になるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方から認知症の相談を受けている。人材育成の為に、実習生やボランティアの受け入れを行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 日頃より、学識経験者や地域の有志の方や消防署からも貴重なアドバイス、ご意見を頂き、施設の方向を見直す機会にしています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、法人が運営する他の事業所と合同で開催しており、利用者や家族、自治会長、民生委員、小学校長、市職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者の生活状況や事業所の活動報告を行い、年に2回ヒヤリハット・事故報告を行っている。意見交換では、地域の情報や助言を得ている。家族会を同時開催することもあり、レクリエーションを行いながら、意見が出やすい環境づくりに努めている。</p>	<p>管理者は運営推進会議でより活発な意見交換ができるようにしたいと考えている。事業所の理解者を増やし、協力関係を構築していくためにも、職員の専門性を活かしたテーマ設定等、会議のテーマや運営方法を工夫し、より魅力的なものにしていくことを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域包括センター、市役所の生活福祉課との情報交換を行っている。今後とも共同関係ができるように、担当者と会う機会を増やしている。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に参加しており、事業所の実情を把握してもらっており、介護保険の更新や確認事項がある時は、その都度担当課職員と連携して問題の解決にあたっている。地域包括支援センターとは、独自に導入したインターネットシステムを通して日常的に情報交換が可能となり、最新情報を簡単に得られるようになった。他の事業所との情報交換の機会が年に3回あり、参加して交流している。また、介護相談員が定期的な訪れ、第三者として気付いたことを助言してくれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は行っていません。そのような環境は作らないようにして、職員が人権侵害の意味を把握し、安全確保に努めています。</p> <p>(外部評価) 職員は身体拘束の弊害について理解し、拘束をしないケアに努めている。転倒の危険がある利用者に対し、本人と家族に相談してベッドにセンサーを取り付け、夜間のみ作動させて転落を防いでいる。疾病による不穏状態が続く場合は適性医療につなげ、治療を行うと共に関係づくりに努めた結果、現在は穏やかに過ごしている利用者もいる。言葉の拘束についても意識し、気づいた時はその都度注意をし合うようにして利用者の人権を損なわないよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の人権を大切にする事は、職員として当然のことである。虐待につながるような事でも、早く気づき、防止出来るように努め、研修会などに参加し、意識を高めていきます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、知識所得に努力している。現在は制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容は分かりやすい説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。出された意見はすぐに話し合いを持ち反映させている。	
			(外部評価) 家族と協働して利用者を支えていきたいという考えのもと、家族と良好な関係を持つよう努めている。毎月利用料支払いのため足を運んでもらう機会を持ち、利用者の状態を報告したり、家族の意見を聞くようにしている。また、家族会を年に2回開催し、一緒にレクリエーションを行いながら家族同士が交流し、不安が安心に変わったという感想も得られている。利用者が不穏状態になり、頻回に家族に電話をする場合は、家族と十分意思疎通を図りながら共に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1の職員会、主任会、幹部会などの会議があり、その会議内容は職員に伝え、個人的にも施設長との直接面談があり、意見を述べる事ができます。 (外部評価) 幅広い年齢層の職員が在籍しており、職員は日常的に介護内容への気づきや意見を、申し送り時やケア会議で提案し、話し合っている。毎月開催される職員会では、運営についての意見や提案を述べる事ができる。また、事業所では、職員研修を計画的に実施して、一人が年3回参加することを目標に、交通費等の助成を行う等職員の意欲向上を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格所得には代表者が意欲的に勧めている。就業環境を考えてもらいながら、資格手当、精勤手当、昇給などがあります。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 県GH研修会、認知症対応の研修会などに積極的に参加しています。昨年度も県GHより、表彰を受けています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市GHに連絡会があり、情報交換をしながら、質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の生活リズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時に状況を把握し、家族が何を望んでいるのか、家族の気持ちになって受け止めようとしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向けて家族が納得し、満足できる支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごし、学び支え合う関係であり、人生の先輩として話しを聞く、教えていただく事を心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との交流の場所として家族会を行っている。面会時には、生活の様子を話す機会を持ち、良い関係を保ちながら、一緒になって利用者を支えていく為に同じ思いで支援していることを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、理美容室、ドライブ、地域の行事などに参加し、継続した支援をしている。	
			(外部評価) 入居時に本人や家族から情報を収集、その後は日常会話の中から馴染みの人や場所の情報を聞いて記録し、職員間で共有している。入居前利用していたスーパーへの買い物や行きつけの理美容室に職員が付き添って行ったり、地区で開催される敬老会に家族の協力で参加している。利用者が会いたいと思っていた知人に久しぶりに会いに行き、双方が喜んだこともある。法人が運営するデイサービスの行事に参加して、知人と出会い話しをする機会がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人の人に付きっきりにならないようにしている。職員が入りながら、利用者同士が上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、家族からの相談を聞いたり、生活している住居や施設に面会に行き、声掛けや励ましの言葉を掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や思いを聞き、その人らしい暮らしが出来るように努めている。職員では対応が難しい場合には家族にも協力をお願いしている。	
			(外部評価) 日常の関わりを大切に、利用者の思いを聞き取るよう努めている。時間を見つけて利用者の横に座り、触れることで話しを引き出したり、レクリエーションをしながら話しかけるようにしている。把握した内容は記録して職員間で共有し、介護計画にも反映させている。表現が困難な利用者は努めて声をかけ、表情やうなづきを見ながら推察するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴を把握し、馴染みの暮らしが出来るように、家族や職員と相談し、環境を整えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別ケア記録を活用して、利用者のできる事、理解できる事を生活の中で発見していくように努める。日内変動する心身の変化を記録すると共に、職員で共有できる場をもっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の申し送り、面会時の家族の意見、日常の本人の生活状態を検討し、本人の意見や家族の意見などを出し合い作成する。	
			(外部評価) 家族面会時や電話で意向を確認し、本人と家族の要望を取り入れながら、職員で話し合っって介護計画を作成している。介護計画を意識しながらケアを行い、毎月モニタリングを実施し、3か月に1回計画の見直しを行っている。介護計画は家族面会時に説明し、同意を得ている。また、昨年介護記録様式の見直しを行い、効率的で分かりやすい書式に変更した。職員と家族が情報や思いを共有しながら、よりよい生活の支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人一人の日々の様子を観察し、職員間で利用者の変化する生活を基に自立できるなど喜びに変えるように検討していく。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 急な要望にも柔軟に対応し、その時々々の要望に応じて、その人にふさわしいニーズに応じた支援をする。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の保育園、中学校とのつながりや、利用者を支えているボランティア、病院などの把握をし、地域の方の力を借りて取り組みの支援をする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的を受診し、日頃の様子を主治医に伝えて連携している。	
			(外部評価) 利用者の従来のかかりつけ医に職員が付き添って継続して受診 している。協力医療機関は訪問診療や訪問看護を実施してお り、24時間医療体制をとっているため緊急時対応が可能で、 利用者や家族の安心につながっている。また、週に2回看護師 が定期的を訪れ、健康管理や職員の相談に乗っている。歯科治 療については訪問による診療を受けることができるため、利用 者に喜ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職がない為、同じ系列の病院の看護師との連携がとれる 体制が確保されている。定期的に看護師の訪問もあるので、近 況を報告し、相談、助言をしてもらえる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側と情報交換をしなが ら、退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族、医師、看護師、介護士など、関わる全員で病気の説明や 今後の介護、治療などが家族の意思に合うように話し合っ ている。	
			(外部評価) 入居時に本人と家族の意向を確認し、事業所が対応できる内容 について伝えると共に、状態の変化に応じてその都度医師を交 えて話し合いを重ね、意向に沿うよう努めている。要望に応え て看取りに取り組み、今までに3名の利用者を看取った経験が ある。母体診療所の医師や看護師と密接に連携し、家族の協力 も得ながら穏やかな最期を見送ることができ、家族に感謝され た経験は職員の励みになっている。今年度より専任の看護師を 配置し、より充実した医療体制の構築に取り組もうとしてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防職員の指導を受け、緊急時、応急手当、初期対応などの講習を受けている。施設間の勉強会などで、専門指導者を招き実施指導を受ける。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議で議題に取り上げ意識向上に努めている。 (外部評価) 年2回日中と夜間想定で火災時避難訓練を実施している。2階からの避難方法については、職員がモデルとなって毛布を使用して階下に下す等実践的な訓練を行っている。地域住民の協力を得るために、地区消防団へ訓練参加を依頼しているが、日程調整が難しく実現していないため、施設内の視察をしてもらって備えている。水や食料等の災害時備蓄品を整備し、定期的に交換している。	実践的避難訓練を積み重ねてきているが、さらに地震や水害時の避難方法について検証が必要と思われる。避難所の状況や避難経路の確認等、職員全員が再確認できる取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、尊厳を保つサービス提供や、声のかけ方など、配慮した対応が出来るようにしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの尊厳を損なうことがないよう、言葉づかいに気をつけている。子ども扱いをするような言葉遣いを戒め、思いやりのある言葉で話しかけるよう努めている。呼称については入居時に本人や家族に確認し、希望に沿った呼び方をしている。また、着衣が汚れた時は直ちに着替えができるよう支援し、不快な思いをしないよう配慮している。居室や更衣室入り口にのれんをかけてプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人にあった声掛けをし、利用者が自分で決める場所を作っている。自己決定できない利用者には家族と相談して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間、レクリエーションなど、一人一人の思いに配慮しながら、柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院に行かれたり、訪問美容院を利用したり、家族にカットをしてもらっている。衣服はできるだけ自分で選んでもらい、個性を尊重したおしゃれが出来るようにしている。毎日、身だしなみチェック表に記入し支援につなげている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みの献立を聞いたり、外食したり、施設の畑で種蒔き、収穫した野菜や近所の方や職員が作った野菜を使用して食卓に配膳できる工夫をしている。	
			(外部評価) 法人の栄養士が作成した献立をもとに、調理専任の職員が各ユニットで調理しており、利用者の要望に応じて献立を変更することもある。事業所の畑で収穫した野菜を使って調理をしたり、行事食は職員が考えて作っている。誕生日には赤飯を用意し、手作りのケーキでお祝いをする。利用者は食後の片付け等手伝えることを行い、職員も一緒に食卓を囲んで和やかな雰囲気のある食事風景である。毎日晚酌を楽しんでいる利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。個々の状態に合わせて、トロミ剤を使用したり、刻み食にして対応している。水分のとりにくい時は、好みの飲料を飲んでもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛け対応を行い、出来る方は自分で、できにくいところは能力に応じて職員が支援している。週3回はコップと歯ブラシをハイター除菌し、週1回は入れ歯洗浄剤で除菌して口腔内が清潔に保てるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録をつけ、個々の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。 (外部評価) 各ユニットにトイレが3か所設置されており、利用者は使いやすいトイレを選んで使用している。職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握して声をかけ、誘導して排泄の自立を念頭に支援しており、日中はほとんどの利用者が布パンツとパットで過ごすことができている。退院時おむつを使用していたが、誘導支援によりリハビリパンツに変更することができた利用者もいる。保温容器に陰部清拭用品が用意されており、排泄の都度清潔が保てるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動を働きかけたり、食材を工夫したり水分を多く飲用してもらっている。医師の指示で薬の調整などを個別に行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番など希望を聞いては、コミュニケーションを図りながら、ゆっくりと安心した入浴が出来るように心掛けている。入浴出来ない時は、清拭、足浴などを行う。 (外部評価) 週2～3回を基本として、和式浴槽に一人ずつ入浴している。希望があれば、毎日入浴することや夕方に入浴することもできる。利用者の身体状態に合わせて、適切な福祉用具を活用し、安全に入浴ができるよう支援している。入浴が苦手な利用者には時間や声かけを工夫して、無理強いをしないようにして入浴してもらっている。利用者はゆったりと歌を口ずさむなどして入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して休めるように、話を聞いたり、体調に合わせて横になって休息出来るように努めている。環境や室温にも気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 本人と薬袋の確認をし、誤薬や飲み忘れがないように気をつけている。一人一人の使用している薬の内容が分かるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々のできる事、楽しみなど、能力を発揮できるような場面作りや何か役割のある生活が送れるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望やその日の体調、天候に合わせてドライブ、外食へ出掛けている。ドライブを兼ねて、自宅見学も行う。 (外部評価) 天気の良い日は、地域の人の散歩道となっている事業所周辺に散歩に出かけ、挨拶を交わしている。月に1回は外食に出かけ、利用者はお好み焼きや回転寿司を楽しみにしている。また、弁当を作って近所の河辺に出かけたり、同法人のデイサービスから福祉用車輛を借りて、遠出を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほぼ全員の方が、お金の管理が出来なくなっている。家族と相談の上、ホームで小遣い程度の金額を施設で預かっている。希望ある時には、一緒に買い物に出掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて、手紙のやり取りや電話ができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を生けています。壁面は生活感、季節感が感じられるように利用者と一緒に工夫しています。	
			(外部評価) リビングはオープンキッチンになっており、椅子席とソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。利用者の願いを書いた笹飾りや、壁には朝顔やひまわりのクラフト作品が飾られている。食卓には家族等が持ってきてくれた季節の花を飾り、季節が感じられるよう配慮している。作品の横に製作過程を撮った写真が飾られていて、利用者が思い出せるよう工夫している。行事写真もその都度貼り換え、変化を持たせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールにはテーブルや椅子を置いて、利用者同士がくつろげるような居場所や環境作りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。	
			(外部評価) エアコンとベッド、1間の大きさのクローゼットが備え付けられており、各部屋はすっきりした印象である。ベッドは、木製ベッドと介護用ベッドがあり、利用者の状態に応じて使い分けられている。利用者は使い慣れたタンスや机、椅子等の家具やテレビを持ち込み、家族写真やぬいぐるみを飾って、個性的で居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の能力を見極め、状態に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して、少しでも自立した生活が送れるように支援している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム 竹林院
所在地	愛媛県西予市野村町野村12号106番地
自己評価作成日	平成 28 年 6 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 7 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設近くの土手は利用者や近隣者の散歩コースになっており、田畑の緑にも囲まれた恵まれた環境です。外出を楽しみにしている利用者のため、計画的に食事会やドライブをしています。当グループホームは、医療機関を中心とした多くの介護施設の一部なので、利用者にとって多くの方との出会い、娯楽、リハビリ、教養の機会を持っています。音楽療法などは、デイサービスで楽しみ、グループホーム間では、相互のレクリエーションで人間関係を作ります。看取り契約者がおられる時には、訪問看護のサービス提供で、介護職員が安心でき、利用者にとっても最後まで穏やかに過ごせる場所となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は盆地の中にある市街地に立地しており、近隣に交番や保育所、児童館、乙亥会館がある。開設から11年目を迎え、地方祭や乙亥相撲の見物等の地域行事への参加や小学生との交流があり、地域に馴染んだ事業所になっている。職員は開設当初からの理念を継承し、利用者一人ひとりの思いを大切に、利用者のペースに合わせながら、家庭に近い環境で穏やかに過ごしてほしいという思いを持ってケアに取り組んでいる。経験豊かな職員が多く、熱い思いを持って利用者や家族の期待に応えようと努めている。また、経営母体が診療所で、24時間医療体制をとって地域の総合病院と連携しながら適正医療が受けられるよう支援しており、利用者や家族の安心につながっている。今年度はさらに看護師による日常的健康管理と看取り体制の整備に取り組んでいる。職員は熱心に研修に取り組み、研鑽を積んでサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 竹の園

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 小玉弘美

評価完了日 平成 28 年 6 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎日の申し送りや勉強会などで、理念に触れ、意見の統一を図りながら、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員が話し合っ作成した理念を大切に継承している。6項目にわたる理念には、利用者一人ひとりの想いを大切に笑顔と優しさで寄り添うこと、利用者の認知機能を十分理解した上で利用者のペースに合わせながら、家庭に近い環境で穏やかに過ごしてほしいという思いがこめられている。理念は玄関や各ユニットに掲示され、職員はケアに行き詰った時に理念に立ち返り、共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 周囲の地域の方とは、何時も挨拶を欠かさず会話などをしていきます。近隣の保育園、中学校との交流の機会があります。</p> <p>(外部評価) 隣家に住む高齢者は何かと事業所のことを気にかけてくれており、野菜の差し入れなどしてくれる関係になっている。事業所周辺は地域の散歩コースになっており、挨拶を交わし合ったり、保育園児が散歩途中で事業所に立ち寄ることもある。利用者は、小学校の運動会や保育園の行事に招待されて交流したり、乙亥相撲の見物やマラソン大会では浴道に出て応援をしている。地方祭では牛鬼が事業所を訪れ、利用者はそれを楽しみにしている。また、職員は地区内清掃に参加して、地区の人と顔見知りの関係になるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方から、認知症の相談を受けている。人材育成の為に、実習生やボランティアの受け入れを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 日頃より、学識経験者や地域の有志の方や消防署からも貴重なアド バイス、ご意見を頂き、施設の方向を見直す機会にしています。	
			(外部評価) 運営推進会議は、法人が運営する他の事業所と合同で開催しており、利用者や家族、自治会長、民生委員、小学校長、市職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者の生活状況や事業所の活動報告を行い、年に2回ヒヤリハット・事故報告を行っている。意見交換では、地域の情報や助言を得ている。家族会を同時開催することもあり、レクリエーションを行いながら、意見が出やすい環境づくりに努めている。	管理者は運営推進会議でより活発な意見交換ができるようにしたいと考えている。事業所の理解者を増やし、協力関係を構築していくためにも、職員の専門性を活かしたテーマ設定等、会議のテーマや運営方法を工夫し、より魅力的なものにしていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括センター、市役所の生活福祉課との情報交換を行っている。今後とも共同関係ができるように、担当者と会う機会を増やしている。	
			(外部評価) 市職員は運営推進会議に参加しており、事業所の実情を把握してもらっており、介護保険の更新や確認事項がある時は、その都度担当課職員と連携して問題の解決にあたっている。地域包括支援センターとは、独自に導入したインターネットシステムを通して日常的に情報交換が可能となり、最新情報を簡単に得られるようになった。他の事業所との情報交換の機会が年に3回あり、参加して交流している。また、介護相談員が定期的に訪れ、第三者として気付いたことを助言してくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていません。そのような環境は作らないようにして、職員が人権侵害の意味を把握し、安全確保に努めています。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の弊害について理解し、拘束をしないケアに努めている。転倒の危険がある利用者に対し、本人と家族に相談してベッドにセンサーを取り付け、夜間のみ作動させて転落を防いでいる。疾病による不穏状態が続く場合は適性医療につなげ、治療を行うと共に関係づくりに努めた結果、現在は穏やかに過ごしている利用者もいる。言葉の拘束についても意識し、気づいた時はその都度注意をし合うようにして利用者の人権を損なわないよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の人権を大切にすることは、職員として当然のことである。虐待につながるような事でも、早く気づき、防止出来るように努め、研修会などに参加し、意識を高めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、知識所得に努力している。現在は制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容は分かりやすい説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛ける。出された意見はすぐに話し合いを持ち反映させている。 (外部評価) 家族と協働して利用者を支えていきたいという考えのもと、家族と良好な関係を持つよう努めている。毎月利用料支払いのため足を運んでもらう機会を持ち、利用者の状態を報告したり、家族の意見を聞くようにしている。また、家族会を年に2回開催し、一緒にレクリエーションを行いながら家族同士が交流し、不安が安心に変わったという感想も得られている。利用者が不穏状態になり、頻回に家族に電話をする場合は、家族と十分意思疎通を図りながら共に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会、主任会、幹部会などの会議があり、その会議内容は職員に伝え、個人的にも施設長との直接面談があり、意見を述べる事ができます。 (外部評価) 幅広い年齢層の職員が在籍しており、職員は日常的に介護内容への気づきや意見を、申し送り時やケア会議で提案し、話し合っている。毎月開催される職員会では、運営についての意見や提案を述べる事ができる。また、事業所では、職員研修を計画的に実施して、一人が年3回参加することを目標に、交通費等の助成を行う等職員の意欲向上を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格所得には代表者が意欲的に働めている。就業環境を考えてもらいながら、資格手当、精勤手当、昇級などがあります。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 県GH研修会、認知症対応の研修会などに積極的に参加しています。昨年度も県GHより、表彰を受けています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市GHに連絡会があり、情報交換をしながら、質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の生活リズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時に状況を把握し、家族が何を望んでいるのか、家族の気持ちになって受け止めようとしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向けて家族が納得し、満足できる支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごし、学び支え合う関係であり、人生の先輩として話を聞く、教えていただく事を心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との交流の場所として家族会を行っている。面会時には、生活の様子を話す機会を持ち、良い関係を保ちながら、一緒になって利用者を支えていく為に同じ思いで支援している事を伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、理美容室、ドライブ、地域の行事などに参加し、継続した支援をしている。 (外部評価) 入居時に本人や家族から情報を収集、その後は日常会話の中から馴染みの人や場所の情報を聞いて記録し、職員間で共有している。入居前利用していたスーパーへの買い物や行きつけの理美容室に職員が付き添って行ったり、地区で開催される敬老会に家族の協力で参加している。利用者が会いたいと思っていた知人に久しぶりに会いに行き、双方が喜んだこともある。法人が運営するデイサービスの行事に参加して、知人と出会い話しをする機会がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人に付きっきりにならないようにしている。職員が入りながら、利用者同士が上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、家族からの相談を聞いたり、生活している住居や施設に面会に行き、声掛けや励ましの言葉を掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や思いを聞き、その人らしい暮らしが出来るように努めている。職員では対応が難しい場合には家族にも協力をお願いしている。	
			(外部評価) 日常の関わりを大切に、利用者の思いを聞き取るよう努めている。時間を見つけて利用者の横に座り、触れることで話しを引き出したり、レクリエーションをしながら話しかけるようにしている。把握した内容は記録して職員間で共有し、介護計画にも反映させている。表現が困難な利用者は努めて声をかけ、表情やうなづきを見ながら推察するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴を把握し、馴染みの暮らしが出来るように、家族や職員と相談し、環境を整えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別ケア記録を活用して、利用者のできる事、理解できる事を生活の中で発見していくように努める。日内変動する心身の変化を記録すると共に、職員で共有できる場をもっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の申し送り、面会時の家族の意見、日常の本人の生活状態を検討し、本人の意見や家族の意見などを出し合い作成する。	
			(外部評価) 家族面会時や電話で意向を確認し、本人と家族の要望を取り入れながら、職員で話し合っ介護計画を作成している。介護計画を意識しながらケアを行い、毎月モニタリングを実施し、3か月に1回計画の見直しを行っている。介護計画は家族面会時に説明し、同意を得ている。また、昨年介護記録様式の見直しを行い、効率的で分かりやすい書式に変更した。職員と家族が情報や思いを共有しながら、よりよい生活の支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人一人の日々の記録を観察し、職員間で利用者の変化する生活を基に自立できるなど喜びに変えるように検討していく。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 急な要望にも柔軟に対応し、その時々々の要望に応じて、その人にふさわしいニーズに応じた支援をする。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の保育園、中学校とのつながりや、利用者を支えているボランティア、病院などの把握をし、地域の方の力を借りて取り組みの支援をする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的を受診し、日頃の様子を主治医に伝えて連携している。	
			(外部評価) 利用者の従来のかかりつけ医に職員が付き添って継続して受診して いる。協力医療機関は訪問診療や訪問看護を実施しており、24時 間医療体制をとっているため緊急時対応が可能で、利用者や家族の 安心につながっている。また、週に2回看護師が定期的を訪れ、健 康管理や職員の相談に乗っている。歯科治療については訪問による 診療を受けることができるため、利用者に喜ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職がない為、同じ系列の病院の看護師との連携がとれる体制 が確保されている。定期的に看護師の訪問もあるので、近況を報告 し、相談、助言をしてもらえる。	
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側と情報交換をしながら、退 院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族、医師、看護師、介護士など、関わる全員で病気の説明や今後 の介護、治療などが家族の意思に合うように話合っている。	
			(外部評価) 入居時に本人と家族の意向を確認し、事業所が対応できる内容につ いて伝えると共に、状態の変化に応じてその都度医師を交えて話し 合いを重ね、意向に沿うよう努めている。要望に応じて看取りに取 り組み、今までに3名の利用者を看取った経験がある。母体診療所 の医師や看護師と密接に連携し、家族の協力も得ながら穏やかな最 期を見送ることができ、家族に感謝された経験は職員の励みになっ ている。今年度より専任の看護師を配置し、より充実した医療体制 の構築に取り組もうとしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防職員の指導を受け、緊急時、応急手当、初期対応などの講習を受けている。施設間の勉強会などで、専門指導者を招き、実施指導を受ける。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議で議題に取り上げ意識向上に努めている。 (外部評価) 年2回日中と夜間想定で火災時避難訓練を実施している。2階からの避難方法については、職員がモデルとなって毛布を使用して階下に下す等実践的な訓練を行っている。地域住民の協力を得るために、地区消防団へ訓練参加を依頼しているが、日程調整が難しく実現していないため、施設内の視察をしてもらって備えている。水や食料等の災害時備蓄品を整備し、定期的に交換している。	実践的避難訓練を積み重ねてきているが、さらに地震や水害時の避難方法について検証が必要と思われる。避難所の状況や避難経路の確認等、職員全員が再確認できる取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、尊厳を保つサービス提供や、声のかけ方など、配慮した対応ができるようにしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの尊厳を損なうことがないように、言葉づかいに気をつけている。子ども扱いをするような言葉遣いを戒め、思いやりのある言葉で話しかけるよう努めている。呼称については入居時に本人や家族に確認し、希望に沿った呼び方をしている。また、着衣が汚れた時は直ちに着替えができるよう支援し、不快な思いをしないよう配慮している。居室や更衣室入り口にのれんをかけてプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人にあった声掛けをし、利用者が自分で決める場所を作っている。自己決定できない利用者には家族と相談して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間、レクリエーションなど、一人一人の思いに配慮しながら、柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院に行かれたり、訪問美容院を利用したり、家族にカットをしてもらっている。衣服はできるだけ自分で選んでもらい、個性を尊重したおしゃれが出来るようにしている。毎日、身だしなみチェック表に記入し支援につなげている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みの献立を聞いたり、外食したり、施設の畑で種蒔き、収穫した野菜や近所の方や職員が作った野菜を使用して食卓に配膳できる工夫をしている。	
			(外部評価) 法人の栄養士が作成した献立をもとに、調理専任の職員が各ユニットで調理しており、利用者の要望に応じて献立を変更することもある。事業所の畑で収穫した野菜を使って調理をしたり、行事食は職員が考えて作っている。誕生日には赤飯を用意し、手作りのケーキでお祝いをする。利用者は食後の片付け等手伝えることを行い、職員も一緒に食卓を囲んで和やかな雰囲気食事風景である。毎日晩酌を楽しんでいる利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。個々の状態に合わせて、トロミ剤を使用したり、刻み食にして対応している。水分のとりにくい時は、好みの飲料を飲んでもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛け対応を行い、出来る方は自分で、できにくいところは能力に応じて職員が支援している。週3回はコップと歯ブラシをハイター除菌し、週1回は入れ歯洗浄剤で除菌して口腔内が清潔に保てるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録をつけ、個々の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 各ユニットにトイレが3か所設置されており、利用者は使いやすいトイレを選んで使用している。職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握して声をかけ、誘導して排泄の自立を念頭に支援しており、日中はほとんどの利用者が布パンツとパットで過ごすことができる。退院時おむつを使用していたが、誘導支援によりリハビリパンツに変更することができた利用者もいる。保温容器に陰部清拭用品が用意されており、排泄の都度清潔が保てるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動を働きかけたり、食材を工夫したり水分を多く飲用してもらうようにしている。医師の指示で薬の調整などを個別に行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番など希望を聞いては、コミュニケーションを図りながら、ゆっくりと安心した入浴が出来るように心掛けている。入浴出来ない時は、清拭、足浴などを行う。	
			(外部評価) 週2～3回を基本として、和式浴槽に一人ずつ入浴している。希望があれば、毎日入浴することや夕方に入浴することもできる。利用者の身体状態に合わせて、適切な福祉用具を活用し、安全に入浴ができるよう支援している。入浴が苦手な利用者には時間や声かけを工夫して、無理強いをしないようにして入浴してもらっている。利用者はゆったりと歌を口ずさむなどして入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して休めるように、話を聞いたり、体調に合わせて横になって休息出来るように努めている。環境や室温にも気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 本人と薬袋の確認をし、誤薬や飲み忘れがないように気をつけている。一人一人の使用している薬の内容が分かるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々のできる事、楽しみなど、能力を發揮できるような場面作りや何か役割のある生活が送れるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望やその日の体調、天候に合わせてドライブ、外食へ出掛けている。ドライブを兼ねて、自宅見学も行う。	
			(外部評価) 天気の良い日は、地域の人の散歩道となっている事業所周辺に散歩に出かけ、挨拶を交わしている。月に1回は外食に出かけ、利用者はお好み焼きや回転寿司を楽しみにしている。また、弁当を作って近所の河辺に出かけたり、同法人のデイサービスから福祉用車輛を借りて、遠出を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほぼ全員の方が、お金の管理ができなくなっている。家族と相談の上、ホームで小遣い程度の金額を施設で預かっている。希望ある時には、一緒に買い物に出掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて、手紙のやり取りや電話ができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を生けています、壁面は生活感、季節感が感じられるように利用者と一緒に工夫しています。	
			(外部評価) リビングはオープンキッチンになっており、椅子席とソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。利用者の願いを書いた笹飾りや、壁には朝顔やひまわりのクラフト作品が飾られている。食卓には家族等が持ってきてくれた季節の花を飾り、季節が感じられるよう配慮している。作品の横に製作過程を撮った写真が飾られていて、利用者が思い出せるよう工夫している。行事写真もその都度貼り換え、変化を持たせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールにはテーブルや椅子を置いて、利用者同士がくつろげるような居場所や環境作りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。	
			(外部評価) エアコンとベッド、1間の大きさのクローゼットが備え付けられており、各部屋はすっきりした印象である。ベッドは、木製ベッドと介護用ベッドがあり、利用者の状態に応じて使い分けられている。利用者は使い慣れたタンスや机、椅子等の家具やテレビを持ち込み、家族写真やぬいぐるみを飾って、個性的で居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の能力を見極め、状態に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して、少しでも自立した生活が送れるように支援している。	